公益財団法人やまがた教育振興財団
「教員養成に関する調査研究事業」
報　告　書

研究課題名

「資質・能力」育成の視点からのカリキュラム・マネジメント
～幼児期から中学校までの「資質・能力系統表」作成に資する研修方法～

令和４年４月

山形大学
教授　野口　徹

１．研究の目的

本研究は、山形県内各園・各学校が、幼児期から中学校まで連続して子どもの「資質・能力」を育成するためのカリキュラム・マネジメントを追究するとともに、これを担保する「資質・能力系統表」を作成し得る研修のあり方を検討することを目的とした。

現行の幼稚園教育要領、小学校・中学校学習指導要領では、「資質・能力の育成」を強調している。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」として示された三つの柱を各園・各学校において資質・能力の育成を目指すことになっている。これを実際に行う際に、重要となるのが、各園・各学校が子どもの姿を適切に捉えて資質・能力の評価を行うとともに、育成した資質・能力を学年・学校を越えて連続的に行い、受け渡すことである。これを行うには、各園・各学校において資質・能力の育成を中心に据えたカリキュラム・マネジメントを適切に実施し、その成果を「資質・能力系統表」にまとめて組織的に共有することが有効である。本研究では、先進的に取り組む事例を検討・分析して、これらに有効な「資質・能力系統表」のモデル化を促進するとともに、この「資質・能力系統表」を核に据えたカリキュラム・マネジメントを各園・各学校が継続的に実践することに資する研修方法についても検討した。

なお、当初の計画では、2 年目に対象となる研究協力園・校に赴き、研究支援を実施することとなっていたが、コロナ禍によってこれを十分に実施する体制を維持することが困難となった。そのため、本研究は延長申請を提出・受理されたことから 3 年目に継続して実施することとなった。

2. 研究の概要

1） 先行実践（大分県佐伯市）の調査・研究から

大分県佐伯市では、第 2 期佐伯市長期総合教育計画(2017 年度～2026 年度)の中で「生きる力」をはぐくむ学校教育の推進を柱に「確かな学力の育成」を掲げている。そこでは、「確かな学力の育成」の手立てとして、「ふるさと創生」を核とした総合的な学習の時間の充実を挙げている。

これは、生活科及び総合的な学習の時間を要に、地域の特性を踏まえ、地域の「ひと・もの・こと」を活用しながら、学校を核とした地域の活性化を推進する取組をとおして、児童生徒にふるさとのへの愛着や誇りを育み、夢や希望をもってふるさとの未来を創造する資質・能力を備えた人材の育成を目指すことを目的としている。特徴的な点は、幼・小・中・高における 13 年間を見通した生活科及び総合的な学習の時間(高校は総合的な探究の時間、以下、生活・総合と略記)で育成を目指す資質・能力系統表(表 1)を策定し、全市の学校園の生活・総合等において具体的に取り組んでいることである。これに取り組むことで目指すのが、児童生徒に確かな学力を育成することであり、各学校では、実態に応じたカリキュラムを編成する際の拠り所としているのが「資質・能力系統表」である。

この資質・能力系統表の作成に当たっては、佐伯市教育委員会を中心に以下の手続きを踏んでいる。

・佐伯市としての目指す児童生徒像の明確化
・佐伯市における生活・総合の実態把握
・学習指導要領改訂の方向性の分析
・鳴門教育大学大学院との共同研究の実施
・佐伯市内の学校教員の協力による作成

資質・能力系統表の作成段階及び運用段階において配慮した点として以下の点が挙げられる。

〇作成段階

・小・中・高校の教員をはじめ、指導主事等が作成協力者として携わり、多角　的な視点を大切にした。

・鳴門教育大学大学院との共同研究から大学教員の専門的知見を取り入れた。

○運用段階

・資質・能力系統表の作成後、周知は図るために集合研修を開催した

・資質・能力系統表の活用を促進するために研修プランや研修ドキュメントを提供したり、実践モデルの提示を行ったりした

・モデル校を指定し、独自の資質・能力系統表の作成と公開授業及び事後研究会の提供を進めた

このような手続きで作成された佐伯市の資質・能力系統表は、幼児期・小学校・中学校・高等学校、それぞれの発達段階ごとに作成されていることから、各学校では自校の実態を踏まえ独自の系統表を作成し、実践の充実に努めており、全市の共通の取組という組織性と、学校独自の取組の尊重という自立性の両者がバランスよく保たれている点は注目に値するものである。

表 1佐伯市における幼児教育・小学校・中学校・高等学校を貫く資質・能力系統表

13年間を見通した，幼児教育・生活科・総合的な学習の時間における育成を目指す資質・能力系統表

令和元年度版
佐伯市教育委員会

「ふるさと創生事業」で目指す姿	ふるさとを愛し，ふるさとの未来を創造する力

校種			幼稚園	小学校				中学校	高等学校
段階			ふるさとであそぶ	ふるさとにふれる	ふるさとを感じて・知る	ふるさとについて考え・伝える		ふるさとととともに未来を描く	ふるさとに向けて行動に生かす
視点		資質・能力が身についた園児・児童・生徒の全体像	資質・能力が身についた園児・児童・生徒の姿						
何を理解しているか，何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）	知識・技能	○ふるさとのもの・人やそれらに対する思い・願いを理解している。 ○探究の過程に応じた技能を身につけている。	豊かな体験を通じて，感じたり，気付いたり，分かったり，できるようになったりする。 「知識及び技能の基礎」	ふるさとには何があるか，それがどのような関係にあるか気付く。 自分自身の成長に気付く。 活動や体験を通して，習慣や技能を身につけている。	ふるさとには何があるか，その特徴がわかる。 情報を比較・分類するなど，探究の過程に応じた技能を身につけている。	ふるさとで暮らす人々やその土地の良さがわかる。 情報を比較・分類・関連づけるなど，探究の過程に応じた技能を身につけている。	ふるさとと社会との関わりがわかる。 情報を比較・分類・関連づけ・多面的にみるなど，探究の過程に応じた技能を身につけている。	ふるさとと自分との関わりがわかる。 情報を比較・分類・関連づけ・多面的・構造化するなど，探究の過程に応じた技能を身につけている。
理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）	課題の設定	○物事を多面的に見たり考えたりして，課題を設定し追究している。	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 気付いたことや，できるようになったことなどを使い，考えたり，試したり，工夫したり，表現したりする。 「思考力，判断力，表現力等の基礎」	ふるさとに関心を持っている。 身体全体でふるさとと関わっている。 すすんでふるさとに働きかけている。	自分の関心からふるさとについての課題を設定し，解決方法や手順を考え，見通しを持って追究している。	ふるさとの思いをふまえて課題を設定し，解決方法や手順を考え，見通しを持って追究している。	ふるさとと社会との関わりを考えて課題を設定し，仮説を立てて検証方法を考え，追究している。	ふるさとの未来に向けた課題を設定し，立てた仮説に適合した検証方法を明示して追究している。
	情報の収集	○多様な着眼点から情報を収集している。		教師の支援により手段を選択し，情報を収集している。	自分なりの手段を選択し，情報を収集している。	目的に応じて手段を選択し，情報を収集している。	目的に応じて臨機応変に適切な手段を選択し，情報を収集している。	目的に応じて臨機応変に適切な手段を選択し，情報を収集している。
	整理・分析	○自分の考えを，経験や知識と結びつけて分類・整理するなどして情報を扱っている。		比較したり分類したりして対象を捉えている。 違いに気付いたり良さを生かしたりして他者と関わり合い，試したり予測したりして創造している。	問題状況における事実や関係を，事象を比較したり分類したりして理解し，多様な情報の中にある特徴を見付けている。	問題状況における事実や関係を，整理した情報を関連づけて理解し，多様な情報の中にある特徴を見付けている。	複雑な問題状況における事実や関係を，事象を比較したり因果関係を推論したりして理解し，視点を定めて多様な情報を分析している。	複雑な問題状況における事実や関係を，比較したり因果関係を推理したりして自分の考えを形成し，視点を定めて多様な情報から帰納的・演繹的に考えている。
	まとめ・表現	○目的や意図に応じて，効果的に自分の考えをまとめ，表現している。		まとめたものを相手に伝えたり，交流したりして，表現している。	相手に応じてわかりやすくまとめ，表現している。	相手や目的，意図に応じてわかりやすくまとめ，表現している。	相手や目的，意図に応じて論理的に表現している。	相手や目的，意図に応じて根拠を示して論理的に表現している。
	ふり返り	○探究の過程をふり返り，自己の学びを深めている。		活動や体験をふり返り，生活に生かそうとしている。	学習したことをふり返り，生活に生かそうとしている。	学習の仕方をふり返り，学習や生活に生かそうとしている。	学習の仕方や進め方をふり返り，学習や生活に生かそうとしている。	学習の仕方や進め方を内省し，現在及び将来の学習や生活に生かそうとしている。
どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）	主体性	○より高い目標を立て，努力しようとしている。	心情，意欲，態度が育つ中で，よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力，人間性等」	自分のよさや可能性を生かして，意欲と自信をもって生活しようとしている。	課題の解決に向けて，探究活動に取り組もうとしている。	課題の解決に向けて，探究活動に進んで取り組もうとしている。	課題に誠実に向き合い，解決に向けて探究活動に進んで取り組もうとしている。	課題に高尚に向き合い，より適切な解決に向けて探究活動に進んで取り組もうとしている。
	自己理解	○自分の長所や短所を理解し，自己の生き方を考えている。			自分のよさや自分のできることに気付き，課題解決に向けて取り組んでいる。	自分らしさを発揮して探究活動に向き合い，課題解決に向けて取り組んでいる。	自分のよさを生かしながら探究活動に向き合い，責任をもって探究活動に取り組んでいる。	自分の特徴を生かし当事者意識を持って探究活動に向き合い，計画的に着実に探究活動に取り組んでいる。
	内面化	○経験したことを自分に生かし，次の課題に取り組もうとしている。			探究的な課題解決の楽しさを味わい，次の課題に取り組もうとしている。	探究的な課題解決の経験を自信につなげ，次の課題へ進んで取り組もうとしている。	探究的な課題解決の経験を自己の成長と結びつけ，次の課題へ積極的に取り組もうとしている。	探究的な課題解決の経験の蓄積を自己育成へとつなげ，さらに高次の課題に取り組もうとしている。
	協同性（協働性）	○課題解決に向けて，他者と力を合わせて考え，実行しようとしている。		身近な人々やふるさとに関わり，集団や社会の一員として適切に行動しようとしている。 身近な自然と関わり，自然を大切にしたり，遊びや生活を豊かにしたりしようとしている。	課題解決に向けて，身近な人と協働して探究活動に取り組んでいる。	課題解決に向けて，他者と協働して探究活動に取り組んでいる。	課題解決に向けて，互いの特徴を生かして協同的に探究活動に取り組んでいる。	課題解決に向けて，互いを認め特徴を生かし合い，協同的に探究活動に取り組んでいる。
	他者理解	○自分と異なる意見に耳を傾け，様々な立場の人から学ぼうとしている。			自分と異なる意見や考えがあることを知り，探究活動に取り組もうとしている。	異なる意見や他者の考えを受け入れながら，探究活動に取り組もうとしている。	異なる意見や他者の考えを受け入れながら，探究活動に向き合い，互いを理解しようとしている。	異なる意見や他者の考えを受け入れながら，探究活動に向き合い，互いを尊重し理解しようとしている。
	地域貢献	○伝統・文化の継承，ふるさと・社会との繋がりや発展について考えている。			自分とふるさととのつながりに気づき，ふるさとの活動に参加しようとしている。	自分とふるさとのかかわりを考えながら，進んでふるさとの活動に参加しようとしている。	ふるさとと自分・社会とのかかわりを考えながら，積極的にふるさとの活動に参加しようとしている。	ふるさとと自分とのあり方を考えながら，よりよい社会の実現に向けて活動に参加しようとしている。

2） 山形県内の実践の調査・研究

山形県では、上記佐伯市の資質・能力系統表の取組を参考にしながら、県内の幼児教育施設、小学校、小中一貫校等の複数の教育施設を対象として、実践の状況の調査を行った。その上で特徴的な取組を行っている園・学校について詳細について分析を実施した。対象としたのは、「A 町立幼児教育施設」「B 小学校」である。また、これらを含めて、県内で同種の取組を実施している教育施設にアンケートを実施し、教職員の意識を調査した。

これらの調査によって、県内で資質・能力系統表を援用したカリキュラム・マネジメントを実施する取組から明らかになったことを３点述べる。

ア）資質・能力ベースの授業改善に対する教師の意識改革

各学校園の指導事例の分析から、園児や児童生徒の資質・能力の育成に向けて、各自の授業改善を図ろうとする教師の意識改革を確認することができた。資質・能力の育成という視点から、これまで行ってきた自分の指導方法を検証し、工夫や改善を図ろうとする教師の姿が見られる。この姿が授業改善に繋がり、園児や児童生徒の確実な変容となって表れ始めている。また、教師の授業改善を教師個々に全てを委ねることなく、「資質・能力系統表」を意図的・計画的に活用できる研修体制を整え、学校園として組織的に取り組んでいる点も、教師の意識改革に好影響を及ぼしている。

イ）教科横断的なカリキュラムの編成に関する教師の確かな理解と共通理解

各学校園のアンケート調査の結果から、「資質・能力系統表」を活用する際に、特に小学校・中学校の多くの教師が総合的な学習の時間や全教育活動が適していると回答している点は注目したい。

資質・能力を「教科等で育成する資質・能力」だけでなく、「学習の基盤となる資質・能力」や「現代的な諸課題に対応できる資質・能力」と、文部科学省が提起している資質・能力についても適切に理解し、自校園の「資質・能力系統表」に反映させて指導に生かそうとしている。教科横断的にカリキュラムを編成していく上で、学校全体で資質・能力について共通理解を図っていくことは大変重要な視点である。

特に、学習の基盤となる資質・能力については、「資質・能力系統表」のように、学校として育成すべき資質・能力を検討し具体的に設定をしないと、教師個々で設定をしなければならなくなり、教師の指導が孤立してしまうことも考えられる。

ウ）「資質・能力系統表」の継続的な活用に向けた各学校園の工夫

各学校園の教師は「資質・能力系統表」の長所を認識している。取組の今後の更なる充実に向けて、いかに「資質・能力系統表」を活用したカリキュラム・マネジメントを継続していくかが共通の課題となっている。園・校内研究ごとに、「資質・能力系統表」を使って事後研究会や研修会を実施して系統表の中身を更新したり、日常的に教師間の打ち合わせで話題にしたりするなど、継続していくために工夫や改善を図っている。このような中でも、問 10 で見られるように、「研修の更なる充実」や「子供の評価に関する情報交換や共有の場の設定」等を希望する教師を確認することができた。

現実的な教師の働き方を考えれば、多忙な中で上記の時間をどうのように設定するか、非常に難しい問題である。しかし、多忙であるが故に、学校として上記のような時間を設定することに力を注ぐことが重要である。教師同士が一枚岩となって、日々の授業に自信をもって取り組み、園児や児童生徒の資質・能力の育成に繋がる実感を得ることが教師にとって何より必要である。この実感こそが教師個々の授業改善へのモチベーションとなる。

3. 本調査研究全体の総括

以下の成果と課題を挙げる。

1) 成果

本調査研究の成果としては以下の２点がある。

① 幼児教育施設および学校における資質・能力の育成を核に据えたカリキュラム・マネジメントの在り方について、先行的な実践について情報を収集・分析を行い、構築した知見を県内の複数の幼児教育施設・学校に提示することによって、それぞれの園・学校において、「資質・能力系統表」を軸としたカリキュラム・マネジメントの整備と、それに伴う教育活動の質の向上に貢献するに至ったことである。特に、それぞれの学校・園では、これらを個々の教師が個別に取り組むのではなく、協働的な組織としての研修方式が恒常的に取られるものとして整備されていった。これらによって今後も継続的なものとしてカリキュラム・マネジメントが機能することが期待されるところである。

② 本調査研究で実施した教員のアンケート調査から、上記の取組に関わったことから、資質・能力の育成を核に据えたカリキュラム・マネジメントに関わる意識の変容を生み出している状況が生まれてきている点である。特に、小学校では、学級担任制を敷いていることから、担当した学年の児童の資質・能力を適切に評価し、それに合わせた指導を行うことはもちろんのこと、それを次年度の担当者に繋がるように申し渡すことの必要性の意識が生まれている。「資質・能力系統表」が組織内に存在することで、教員間で日常的にコミュニケーションをとることを促していることも明らかとすることができた。

2) 課題

本調査研究の課題としては以下の点がある。

① カリキュラム・マネジメントについて年間を通して実施する際に、これを阻害する要素が存在することも浮き彫りとなった。それは、その組織の構成員が多い場合は、これらの内容の整合性を高めるための時間・場それぞれを頻繁に設定することが困難である、ということである。現在の教師の多忙を極める状況を考えたときに、これらの設定をどのように設定するのか、という視点からその方法を再考することが課題となる。

② 2. 幼児期・小学校期・中学校期を、ほぼ同グループの子供によって連続する形式での調査・研究を実施し、検証することが本調査研究ではできなかった。コロナ禍という予想外の事態が生まれたこともあったが、本調査研究の内容や目的からはこの点を対象にすることが必要となる。今後、新たに調査研究を行う際の課題である。

3) 今後の取組及び期待される効果

上記した成果に示したように、本研究の内容に沿う形で、山形県内の幼児教育施設・学校において、「資質・能力系統表」を軸としたカリキュラム・マネジメントの整備と、それに伴う教育活動の質の向上を目的とした、高い意識をもった研究・研修の取組が増えていくことが期待される。特に、それぞれの学校・園で、協働的な組織としての園内・校内における研究・研修方式が恒常的に取られるならば、それぞれの施設において継続的なカリキュラム・マネジメントが機能し、教育の質の向上が期待されるところである。